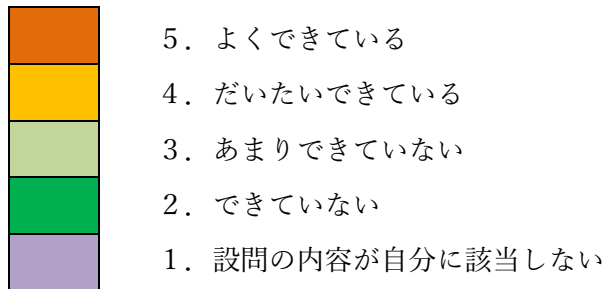


みらい園「2022年度 自己評価に関するアンケート」集計結果

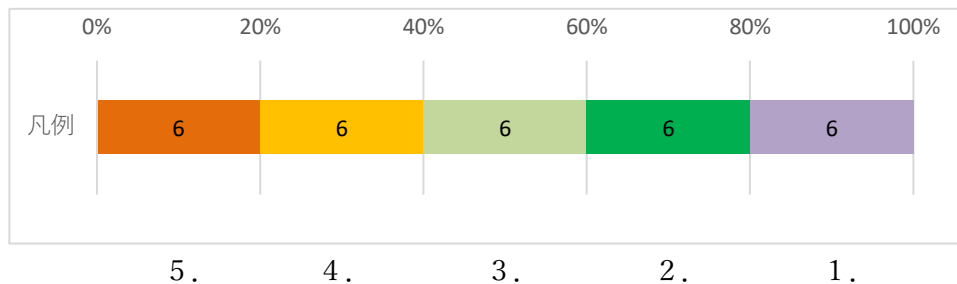
本年度は、「自己評価に関するアンケート」の質問項目に「園の教育保育理念・基本方針に関して」を加えるとともに、他の項目においても質問項目の精選を行った。その結果、項目の数は昨年度より一つ増えて以下の5つとなった。

- I 園の教育保育理念・基本方針に関して（1～5）
- II 子どもの保育に関して（1～11）
- III 保護者への対応に関して（1～6）
- IV 同僚・上司とのコミュニケーション等に関して（1～6）
- V 能力向上の努力に関して（1～8）

それぞれの設問について、次の評点を選択する形で回答を求めた。



集計グラフ（グラフ内数字は各評点を選択した人数）

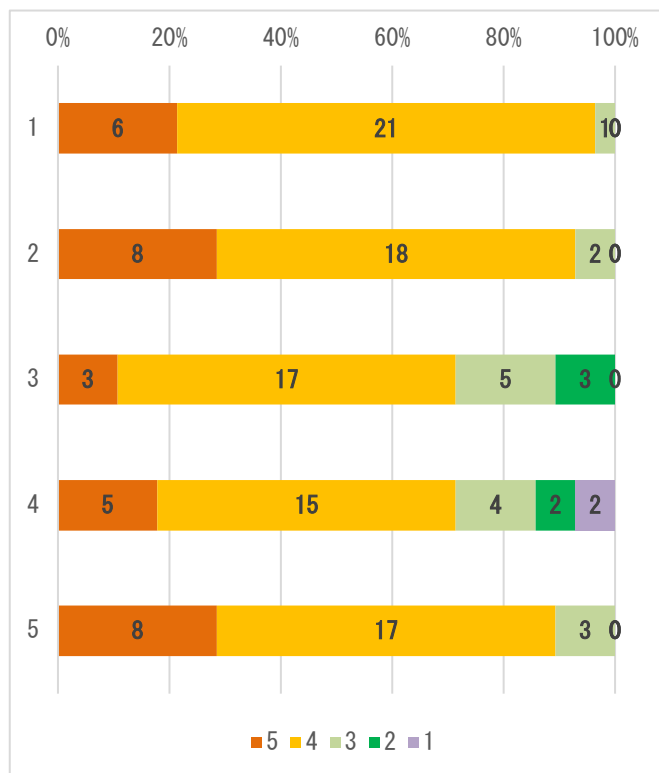


2022年12月下旬から2023年1月にかけて本アンケートを実施した。なお、専任保育教諭は Microsoft Forms を使ってオンライン上で回答し、保育にかかわるそれ以外の教職員は紙媒体のアンケート用紙に記入する形を取った。該当教職員数は28名。回収率は100%である。集計は園長が行った。

みらい園「2022年度自己評価に関するアンケート」集計結果

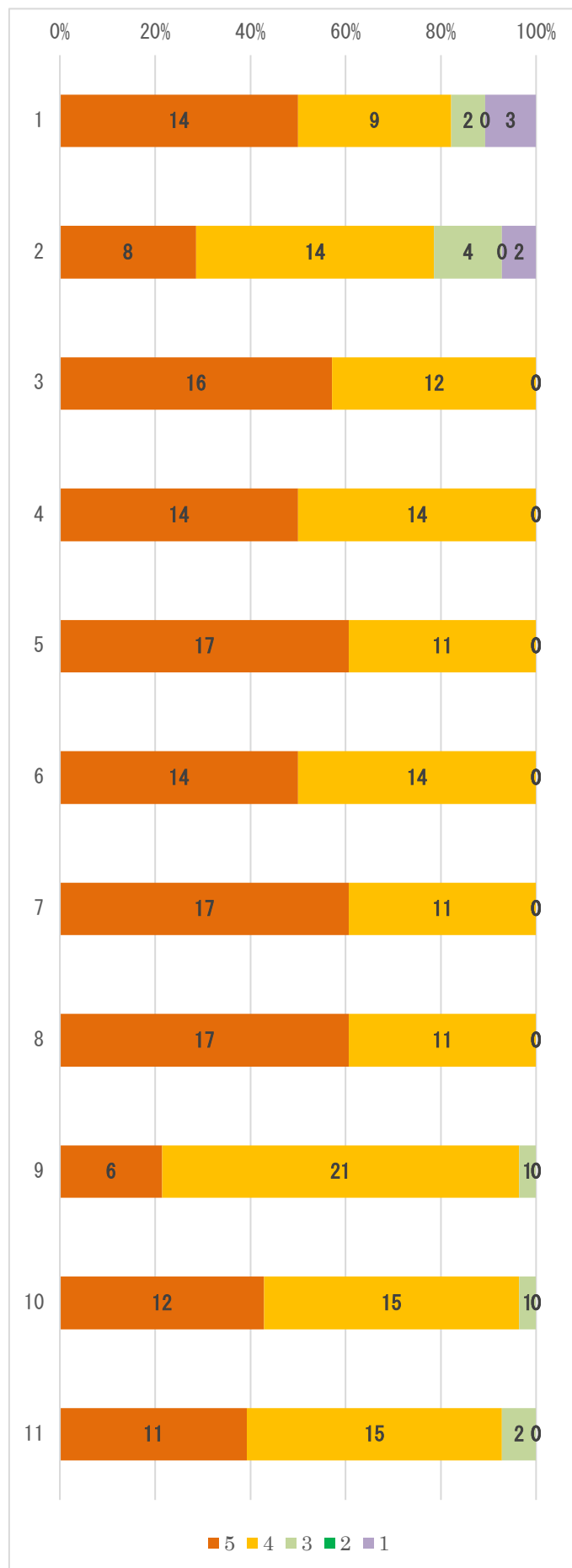
I 園の教育保育理念・基本方針に関して

①園の教育保育理念を理解している。
②園の教育保育三つの柱を理解している。
③園の今年度教育保育の努力目標を理解している。
④自分が担当する年齢の年間指導計画を理解している。
⑤園が目指す幼児の姿を自分なりにイメージできる。



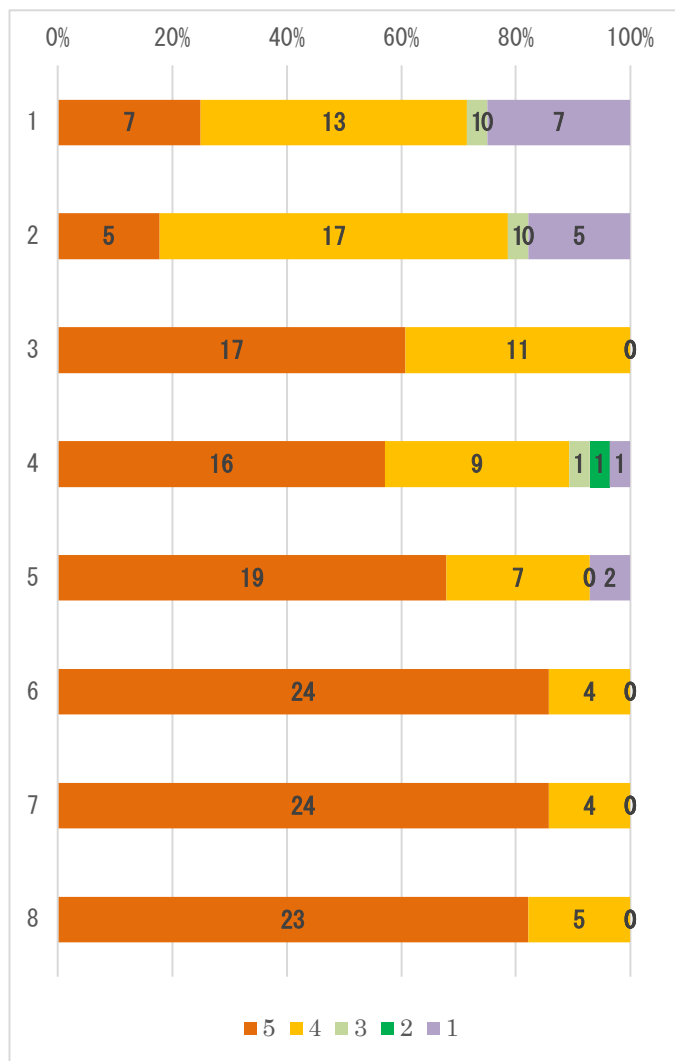
II 子どもの保育に関して

①登園時、担当する子ども一人一人の健康状態について十分に確認している。
②子ども一人一人の家庭環境や、発育・発達の状態について理解できている。
③子どもの話によく耳を傾けるようにしている。
④子どもを尊重した、丁寧な言葉遣いを心掛けている。
⑤どの子どもにも感情のむらなく平等にかかわるよう心掛けている。
⑥きつい言葉遣いや、子どもの自信を失わせるような言葉・態度を避けている。
⑦子どもをほめたり、励ましたり、子ども自身が目当てを持てるような言葉がけを心掛けている。
⑧子どもとの温かなやり取りや適度なスキンシップを心掛けている。
⑨子どもが遊びを深めていけるようヒントやアイデアを提供するよう心掛けている。
⑩子ども同士の関係にも配慮して保育を行っている。
⑪保育者自身が、保育の中で神様への感謝の気持ちを持ち、それをことばや態度で表現するよう心掛けている。



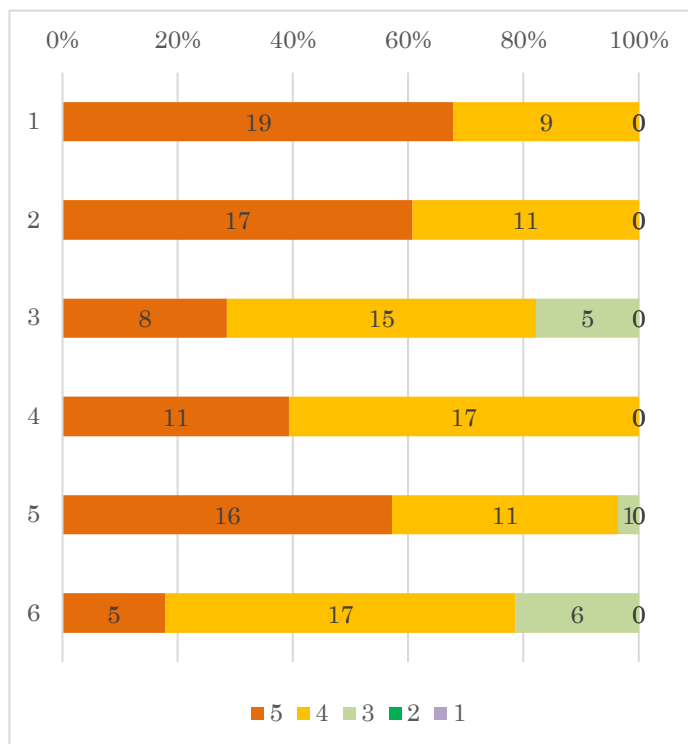
III 保護者への対応に関して

①子どもの様子について、直接話をしたり、電話・連絡帳などを使って保護者と情報共有している。
②保護者から説明された各家庭での養育方針などに留意した保育を心がけている。
③ていねいな言葉遣いを心掛け、友だち同士のような態度で接していない。
④保護者からの依頼や伝言については、記録を残し適切に対応している。
⑤保護者から苦情等があった場合は、よく話を聞いたうえで、上司に報告、相談をしている。
⑥教職員や園の批判を軽はずみにしたり、他の園児や家庭の個人情報了他言したりしていない。
⑦家庭環境や問題について知り得た重要な情報は、むやみに他言せず、上司に報告している。
⑧保護者からの要望、意見等について、安易に引き受けたり断ったり無視したりせず、上司に報告、相談をしている。



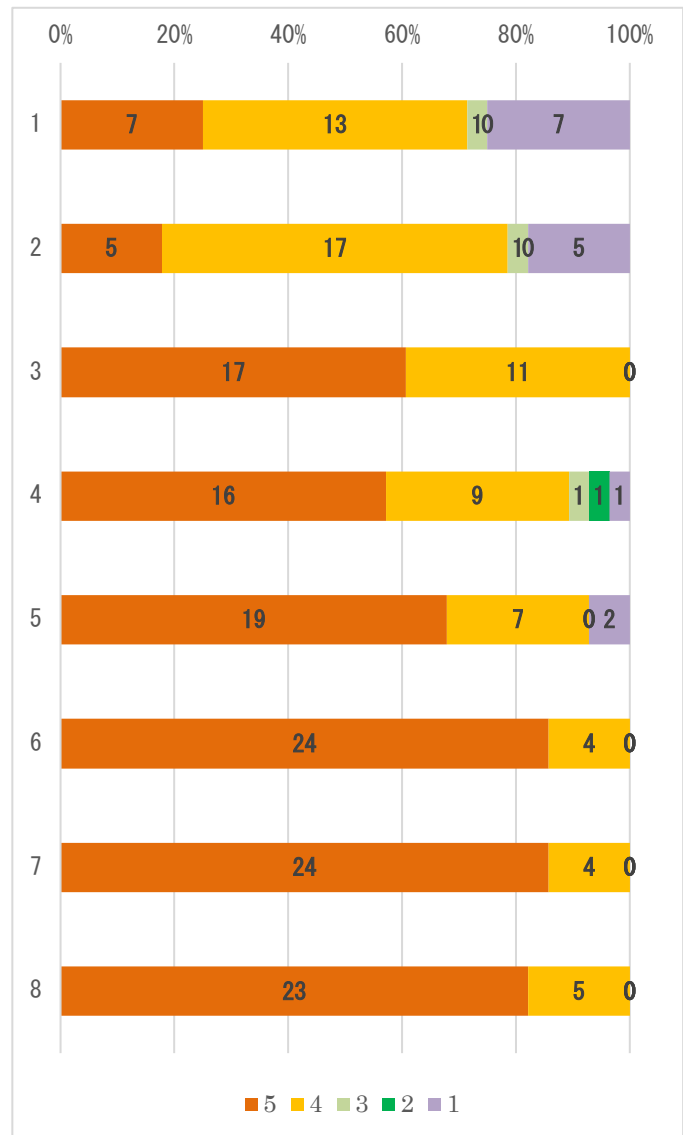
IV 同僚・上司とのコミュニケーション等に関して

①子どもの情報について、保育者間で共有すべきことは同僚・上司に適切に報告している。
②同僚から保育について相談を受けた時、誠意をもって耳を傾けるよう心掛けている。
③同世代だけでなく、年齢の違う同僚とも積極的に情報交換できるよう心掛けている。
④上司や同僚の助言を受け入れ、自分の考えや行動を見直すことができる。
⑤相手の経験年数にかかわらず、身近な同僚や仲間を尊重する関わり方をするように心掛けている。
⑥自分の考えや思いを上司や同僚に対して伝えている。



V 能力向上の努力に関して

①年度ごとに自分なりの目標や課題を持って保育に臨んでいる。
②保育・教育に関する新しい取り組みや考え方について、情報を得ようと日頃から努力している。
③研修や研究会には自分なりの課題をもって参加している。
④保育者の言動が子どもに影響を与えることを自覚している。
⑤職場では正しく丁寧な言葉遣いを心掛けている。
⑥園生活全般における危険性を認識し、事故等の未然防止に日頃から努めている。
⑦服装、髪型、身だしなみなど、清潔感のあるものを心掛け、安全性にも気をつけている。
⑧回覧される月刊誌『キリスト教保育』や保育の参考文献を読み、自身の保育への参考を得るよう心掛けている。



【園長所見】

本集計は、28名の教職員一人ひとりが各設問に対して主観的に評価・判断した数値を、全体としてまとめたものである。昨年同様の設問に対しては概ね同様の結果が得られたが、新しく加えた項目をはじめ、いくつか特徴的なこと、留意しなくてはならないこと等、園長の所見を以下に述べる。

I 園の教育保育理念・基本方針に関して

今年度より新たに設けた本項目では、園の教育保育理念や基本方針を概ね理解しているとの結果が得られたものの、明確に「よくできている」と回答できた割合は各設問とも30%以下に留まった。今後は、非常勤職員を含め、園の理念や方針を効果的に職員間で共有していくよう留意したい。

II 子どもの保育に関して

子どもの理解や子どもとの接し方に関して、子どもを尊重し、丁寧にかかわり、子どもを励ますといった③から⑧の設問で非常に肯定的な結果となり、本園の方針が浸透していることが窺える。引き続き、これらの設問で教職員が自信を持って「よくできている」と回答できるための支援を園として考えたい。

設問⑥「きつい言葉遣いや、子どもの自信を失わせる言葉・態度を避ける」に関しては、昨年度と同様の設問と比較して、5とした割合が24%から50%と増加している。保育における虐待等が日本社会全体で問題になっていることもあり、こうした点には引き続き特段の注意をしていく必要がある。

Ⅲ 保護者への対応について

昨年度との違いは、保護者とのコミュニケーションに関する①や②の設問に見受けられた。①、②では「よくできている」の割合が増加し、「あまりできていない」、「設問の内容が自分に該当しない」の割合が減少した。感染症対策もあり保護者とのコミュニケーションに課題を残した昨年度から、状況が改善していることが窺える。引き続き、保護者との意思疎通を円滑に行える方策を検討していきたい。

Ⅳ 同僚・上司とのコミュニケーション等に関して

「あまり出来ていない」との回答が、③「同世代だけでなく、年齢の違う同僚とも積極的に情報交換できるよう心掛けている」で18%、⑥「自分の考えや思いを上司や同僚に対して伝えている」で21%あった点を園全体の課題として受けとめる必要がある。保育者間の丁寧でより円滑なコミュニケーションや、そのための環境整備の方策について改善策を検討していきたい。

Ⅴ 能力向上の努力に関して

感染症拡大下でオンラインの研修が普及したこともあり、研修に関する設問③は、肯定的な回答の割合が100%と、昨年度（55%）から増加した。一方、各自の目標・課題に関する設問①や、保育に関する新しい情報の取り入れに関する設問②では、「よくできている」がそれぞれ25%、18%と決して高くない割合となった。多忙な職場環境の中で、いかに保育者が新しいことに取り組めるかを、園全体の課題として考えていきたい。